

交通安全のために

～令和5年中の交通事故から～



横断歩道“ハンドサインキャンペーン” 実施中！！

プラス御礼で

「とまってくれてありがとう」を伝えよう

三 重 県 警 察 本 部

三重県交通安全県民運動スローガン

やさしさが 安全つなぐ 三重の道

～ 歩行者の ハンドサインは 赤信号 ～

目次

第1	全国の交通事故発生状況	1
第2	交通情勢からみた三重県の位置	2
第3	三重県の交通事故発生状況	3～16
1	交通事故発生状況	3
2	過去10年の年別推移	3
3	市町別	4・5
4	月別	6
5	曜日別	6
6	時間別	7
7	路線別	7
8	地形・道路形状・道路線形別	8
9	事故類型別	9
10	第1当事者の年齢層別	10
11	第1当事者の事故原因別	11
12	第1当事者の職業別	12
13	死傷者の年齢層別	13
14	死傷者の状態別	14
15	シートベルトの着用状況	15
16	ヘルメットの着用状況	16
第4	各種の交通事故	17～26
1	子供の交通事故	17
2	高校生の交通事故	18
3	高齢者の交通事故	
(1)	全体	19
(2)	高齢運転者	20
4	歩行者の交通事故	21
5	自転車の交通事故	
(1)	全体	22
(2)	年齢別のヘルメット着用状況	23
6	二輪車の交通事故	24
7	若年運転者の交通事故	25
8	飲酒運転の交通事故	26

● 用語の意味 ●

- ★ 交通事故 …… 路上において、車両及び列車の交通によって起こされた事故で、人身事故及び物件事故をいう。
- ★ 人身事故 …… 人の死傷を伴う交通事故をいう。
- ★ 物件事故 …… 物の損壊のみの交通事故をいう。
- ★ 死亡事故 …… 人身事故のうち、人の死亡を伴う交通事故をいう。
- ★ 死者 …… 交通事故発生後24時間以内に死亡した者をいう。
- ★ 第1当事者 …… 交通事故に関与した人のうち、過失が最も重い者をいい、過失が同程度の場合は、被害が最も軽い者をいう。
- ★ 構成率 …… 全体(合計)に占める各項目の構成割合をいい、四捨五入してあるので合計と一致しないものもある。
- ★ 致死率 …… $\text{死者数} \div \text{全死傷者数} \times 100$ をいう。
- ★ 死傷者率 …… 全死傷者数に占める各種の交通事故(こども・高校生の交通事故等)の死傷者数の構成割合をいう。
- ★ 事故類型 …… まず、事故を当事者の種類(人又は車両)によって類型化し、次いで当事者の事故時の行動等(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく類型化したもの。
- ★ 状態別 …… 事故当事者の事故当時の状態(自動車運転中、自動車同乗中、歩行中等)をいう。
- ★ 車両等 …… 自動車、二輪車(原付車を含む)、自転車をいう。

※ 合計等が内訳の数字の和と一致しない場合がある。

■車両の事故原因

- ◇信号無視信号機の設けられている交差点で、赤又は黄色信号等を見逃して交差点に進入して事故を起こした場合等をいう。
- ◇通行区分センターラインを超えて、対向車線に進入して対向車と正面衝突した場合等をいう。
- ◇追い越し追い越し禁止場所や無理な追い越しをして、対向車等と衝突した場合をいう。
- ◇最高速度法定(指定)速度を超えて走行したため、歩行者の発見が遅れて衝突したり、カーブ路を曲がれなかったために事故を起こした場合等をいう。
- ◇歩行者妨害等横断歩道を横断中の歩行者や自転車横断帯を横断中の自転車の発見が遅れたために衝突した場合等をいう。
- ◇一時不停止一時停止の標識・道路標示のある交差点で、一時停止することなく、交差点に進入したために交差道路から走行してきた車両と衝突した場合等をいう。
- ◇酒酔い飲酒により正常な運転ができない状態で、車両を運転したために事故を起こした場合をいう。
- ◇右・左折右・左折禁止場所で右・左折をしたために事故を起こしたり、原付の二段階右折をしなかったために事故を起こした場合等をいう。
- ◇優先通行妨害交差点で右折する時に直進車両と衝突したり、明らかに優先道路を走行している車両と衝突した場合等をいう。
- ◇交差点安全進行交差点で、交差道路から走行してきた車両に特に注意しなかったために衝突したり、反対方向からの右折車両に特に注意しなかったために衝突した場合等をいう。
- ◇徐行場所左右の見とおしの悪い交差点や急な道路の曲がりかど付近等で減速徐行しなかったために交差道路から走行してきた車両や対向車と衝突した場合等をいう。
- ◇ハンドル・ブレーキ操作 ... カーブ路等で急ハンドルを切ったためにガードレールに衝突したり、急ブレーキを踏んだためにスリップして前車に追突した場合等をいう。
- ◇前方不注意考え事やぼんやりしていたり、脇見をしていたために前を良く見ていなかったために停止した前車に気づくのが遅れ追突した場合をいう。
- ◇動静不注視相手(車両・歩行者)の動きを良く見ていなかったために、相手の動きに対応できずに衝突した場合等をいう。
- ◇安全不確認前方・左右・後方に対する安全確認を怠ったために衝突した場合等をいう。
- ◇安全速度カーブ路等で道路状況・環境に応じた速度で走行しなかったために路外へ逸脱したり、飛び出した歩行者と衝突した場合等をいう。

■歩行者の事故原因

- ◇飛び出し安全を確認しないで路上に飛び出したために、車両等と衝突した場合をいう。
- ◇車両の前後横断駐車車両の直前・直後から横断したり、走行車両の直前・直後から横断したために車両等と衝突した場合をいう。
- ◇横断歩道外横断横断歩道が付近にある場所で横断歩道を利用せずに横断したために車両等と衝突した場合をいう。
- ◇横断禁止場所横断道路標識又は道路標示により横断が禁止されている道路で横断したために車両等と衝突した場合をいう。
- ◇幼児のひとり歩き児童等(13歳未満)が保護者を伴わずに一人歩きをしていたために、車両等と衝突した場合をいう。
- ◇めいてい・はいかい道路において、酒に酔ってふらついていたり、寝そべり等の交通妨害をしていたために車両等と衝突した場合をいう。

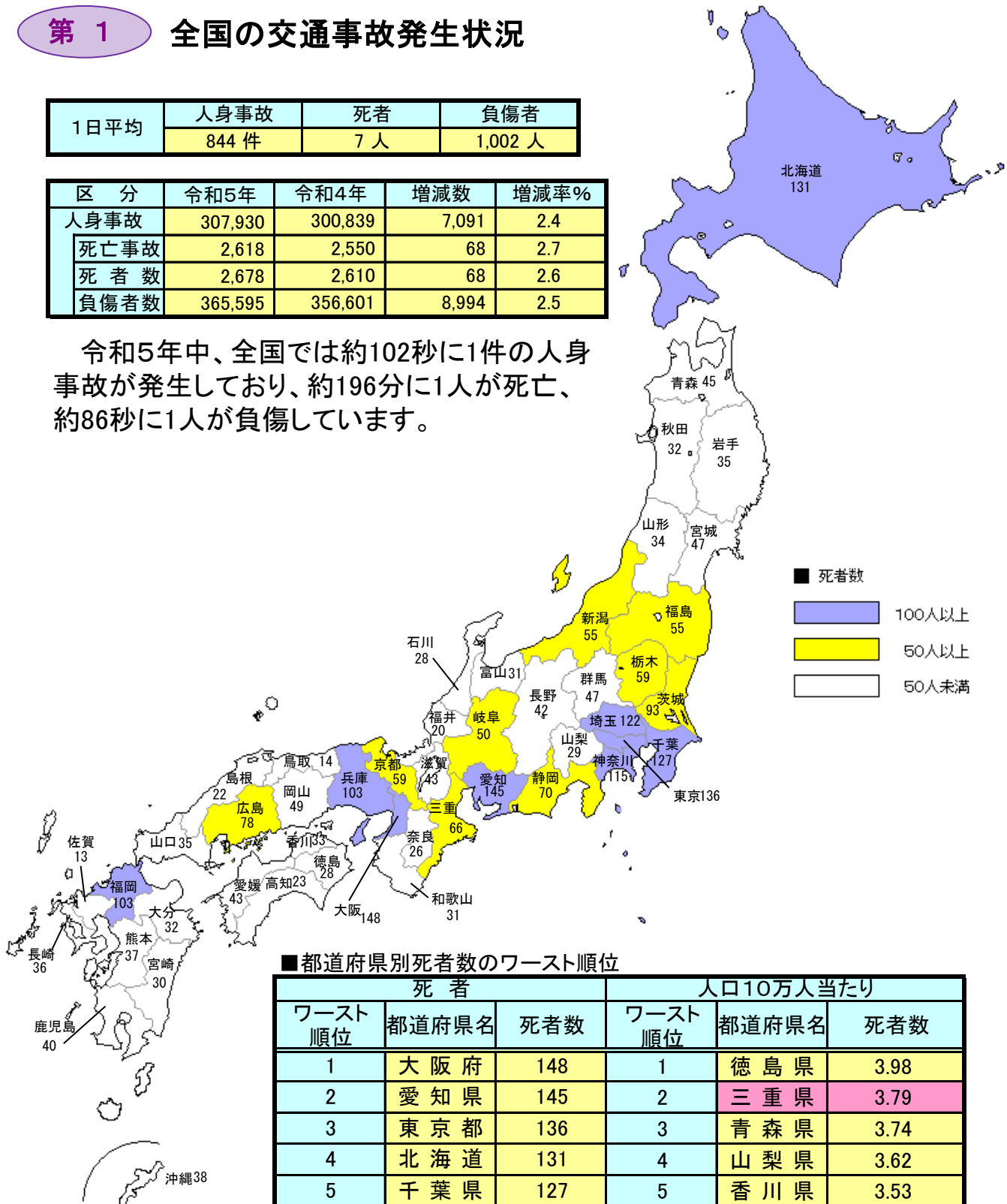
第 1

全国の交通事故発生状況

1日平均	人身事故	死者	負傷者
	844 件	7 人	1,002 人

区 分	令和5年	令和4年	増減数	増減率%
人身事故	307,930	300,839	7,091	2.4
死亡事故	2,618	2,550	68	2.7
死 者 数	2,678	2,610	68	2.6
負傷者数	365,595	356,601	8,994	2.5

令和5年中、全国では約102秒に1件の人身事故が発生しており、約196分に1人が死亡、約86秒に1人が負傷しています。



■都道府県別死者数のワースト順位

死 者			人口10万人当たり		
ワースト 順位	都道府県名	死者数	ワースト 順位	都道府県名	死者数
1	大阪府	148	1	徳島県	3.98
2	愛知県	145	2	三重県	3.79
3	東京都	136	3	青森県	3.74
4	北海道	131	4	山梨県	3.62
5	千葉県	127	5	香川県	3.53
6	埼玉県	122	6	秋田県	3.44
7	神奈川県	115	7	和歌山県	3.43
8	兵庫県	103	8	高知県	3.40
8	福岡県	103	9	島根県	3.34
10	茨城県	93	10	愛媛県	3.29
13	三重県	66	2	三重県	3.79

※人口10万人当たりの死者数は、総務省資料「令和4年10月1日現在推計人口」を使用しています。

第 2

交通情勢から見た三重県の位置

区 分		三 重 県		全 国	備考
			順位		
人 口 (人)		1,742,000	22	124,947,000	令4.10.1 現在
面 積 (km ²)		5,774.48	25	377,974.79	令5.10.1 現在
道路実延長 (km)		25,560.6	22	1,230,387.9	令4.3.31 現在
免 許	人 口 (人)	1,241,340	22	81,862,728	令5.12.31 現在
	保 有 率 (%)	71.26	9	65.52	
	県民1.4に1人の割合			国民1.53に1人の割合	
自 動 車	台 数(原付・小特除く) (台)	1,535,367	21	82,739,619	令4.12.31 現在
	保 有 率 (台数／人口(%))	88.14	12	66.22	
原 付	台 数(1・2種) (台)	96,711	20	6,440,259	令4.7.1 現在
	保 有 率 (台数／人口(%))	5.55	19	5.15	
交 通 事 故	人 身 事 故 件 数	2,976	24	307,930	令5年中 (ワースト順位)
	人口10万人当たり	170.84	35	246.45	
	死 者 数	66	13	2,678	
	人口10万人当たり	3.79	2	2.14	
備考	・ 人口は、総務省資料によって算出しています。 ・ 面積は、国土地理院資料によって算出しています。 ・ 道路実延長、自動車台数は、国土交通省資料によって、原付台数は、総務省資料によって算出しています。 ・ 人口10万人当たりの算出根拠は、総務省資料の「令和4年10月1日現在推計人口」です。				

第 3

三重県の交通事故発生状況

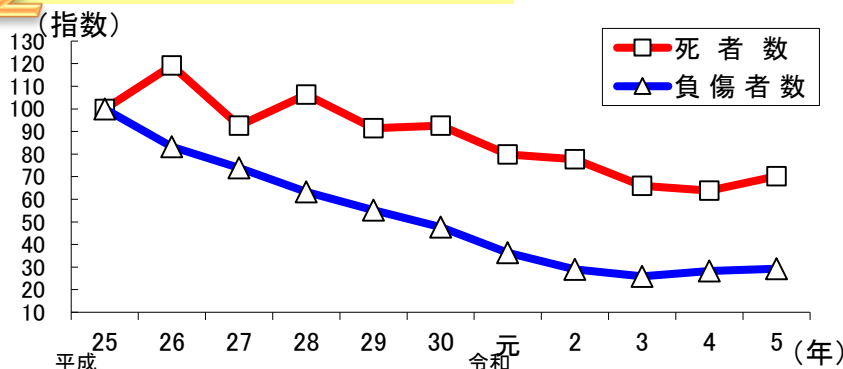
1 交通事故発生状況

区 分	人身事故	死者	負傷者
1 日 平 均	8.2 件	0.2 人	10.3 人

区 分	令和5年	令和5年	増減数	増減率%
人 身 事 故	2,976	2,917	59	2.0
死亡事故	61	59	2	3.4
死 者 数	66	60	6	10.0
負傷者数	3,767	3,638	129	3.5
物 件 事 故	52,121	49,553	2,568	5.2

令和5年中、三重県では、約177分に1件の人身事故が発生しており、約6日に1人が死亡、約140分に1人が負傷しています。

2 過去10年の年別推移



令和5年中の三重県内における交通事故死者数は、10年前の平成25年と比べると約30%減少しました。

※指数は、平成25年を100とした場合の各年の値です。

項目 年	人 身 事 故						物 件 事 故	
	発 生 件 数	指 数	死 者 数	指 数	負 傷 者 数	指 数		指 数
平成 25 年	9,804	100	94	100	12,885	100	54,902	100
26 年	8,100	83	112	119	10,717	83	54,342	99
27 年	7,169	73	87	93	9,517	74	54,505	99
28 年	6,038	62	100	106	8,158	63	54,994	100
29 年	5,441	55	86	91	7,113	55	56,464	103
30 年	4,687	48	87	93	6,136	48	55,885	102
令和 元 年	3,647	37	75	80	4,688	36	53,809	98
2 年	2,966	30	73	78	3,732	29	46,250	84
3 年	2,722	28	62	66	3,338	26	47,143	86
4 年	2,917	30	60	64	3,638	28	49,553	90
5 年	2,976	30	66	70	3,767	29	52,121	95
平成25～令和4年平均	5,349	—	84	—	6,992	—	52,785	—

■統計を取り始めた昭和29年以降における死者の最高を記録した年の発生状況

昭和46年	9,495	—	352	—	13,243	—	10,293	—
-------	-------	---	-----	---	--------	---	--------	---

■統計を取り始めた昭和29年以降における死者の最低を記録した年の発生状況

令和4年	2,917	—	60	—	3,638	—	49,553	—
------	-------	---	----	---	-------	---	--------	---

3 市町別

人口10万人以上の6市(桑名市・四日市市・鈴鹿市・津市・松阪市・伊勢市)で、人身事故の73.6%(2,190件)が発生しています。

●最多……四日市市 607件(20.40%)

●最少……紀宝町 1件(0.03%)

※高速隊分を除く。

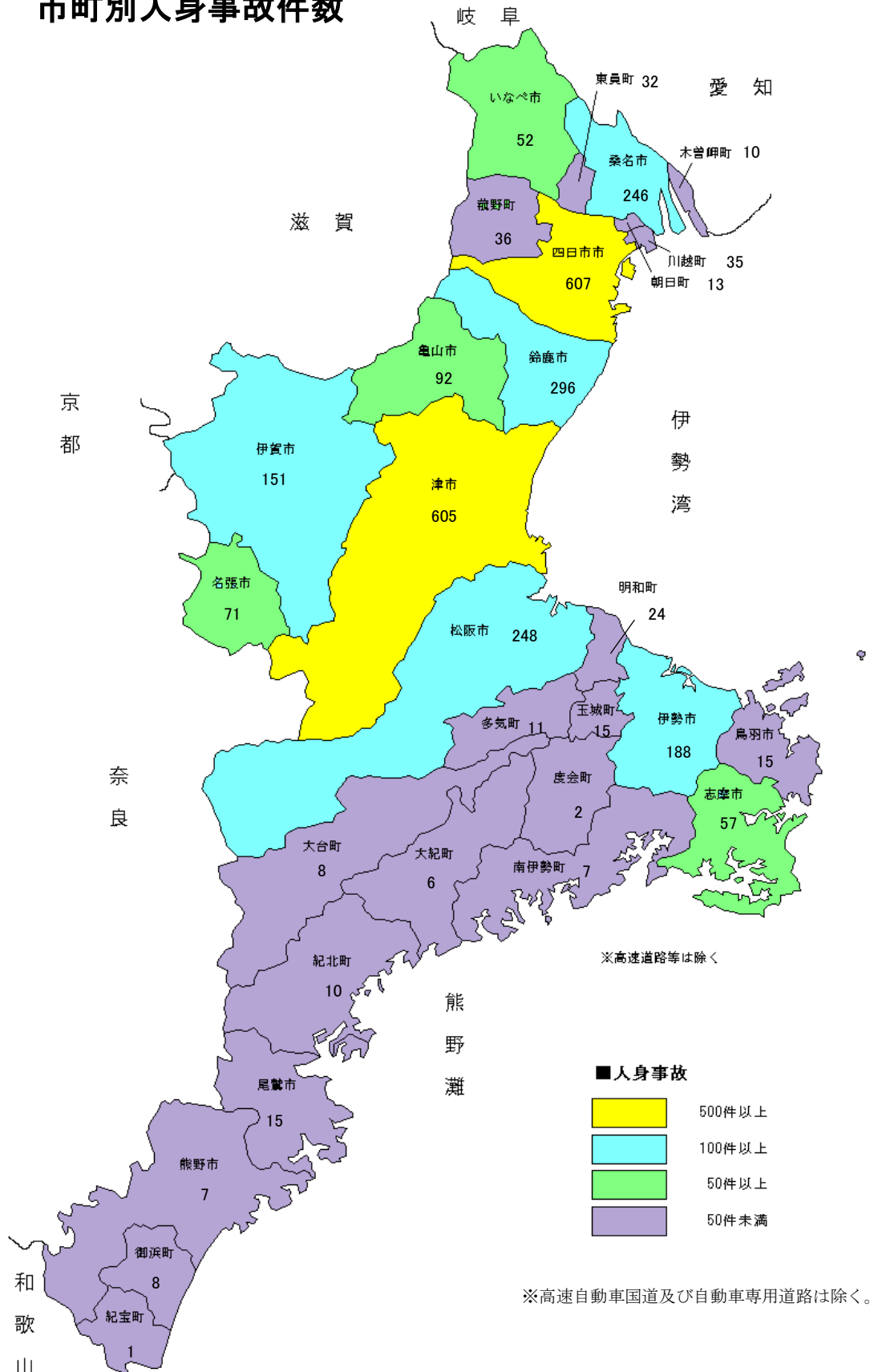
署	市 町	人身事故		
		件数	死者	負傷者
桑名	桑 名 市	246	4	291
	木 曽 岬 町	10	0	15
いなべ	い な べ 市	52	2	70
	東 員 町	32	1	48
四日市北	四 日 市 市	174	2	213
	朝 日 町	13	0	18
	川 越 町	35	0	51
四日市南	四 日 市 市	401	8	480
四日市西	四 日 市 市	32	1	37
	菰 野 町	36	2	40
(四 日 市 市 計)		607	11	730
亀山	亀 山 市	92	1	116
鈴鹿	鈴 鹿 市	296	6	367
津	津 市	443	7	568
津南	津 市	162	3	197
(津 市 計)		605	10	765
松阪	松 阪 市	248	4	313
	多 気 町	11	0	16
	明 和 町	24	0	28

署	市 町	人身事故		
		件数	死者	負傷者
大台	大 台 町	8	2	10
	大 紀 町	6	0	7
伊勢	伊 勢 市	188	3	236
	玉 城 町	15	1	20
	度 会 町	2	0	2
	南 伊 勢 町	7	6	7
鳥羽	鳥 羽 市	15	0	19
	志 摩 市	57	0	64
尾鷲	尾 鷲 市	15	2	14
	紀 北 町	10	1	10
熊野	熊 野 市	7	0	8
紀宝	熊 野 市	0	0	0
	御 浜 町	8	0	10
	紀 宝 町	1	0	1
(熊 野 市 計)		7	0	8
伊賀	伊 賀 市	146	2	178
名張	名 張 市	71	1	81
	伊 賀 市	5	1	5
(伊 賀 市 計)		151	3	183

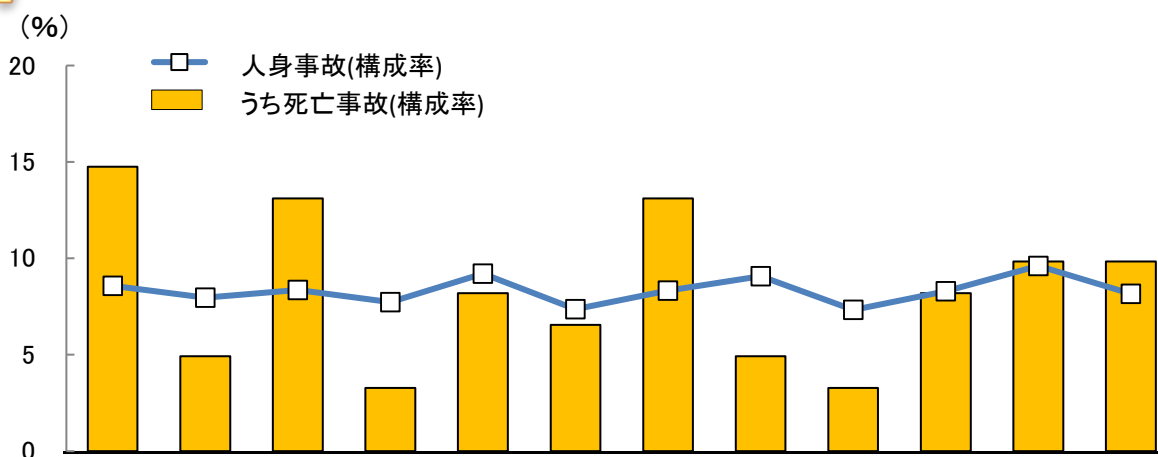
高 速 隊	108	6	227
-------	-----	---	-----

合 計	2,976	66	3,767
-----	-------	----	-------

市町別人身事故件数

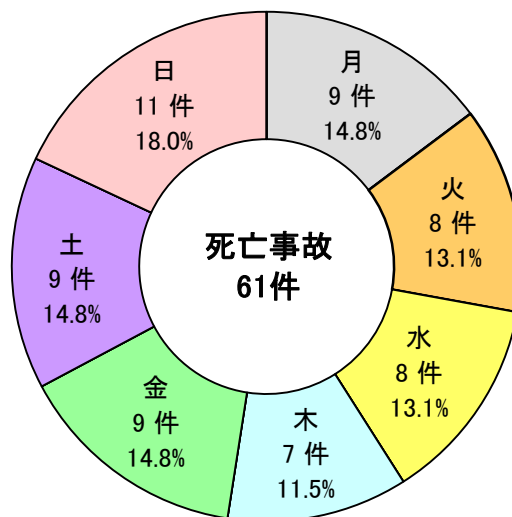
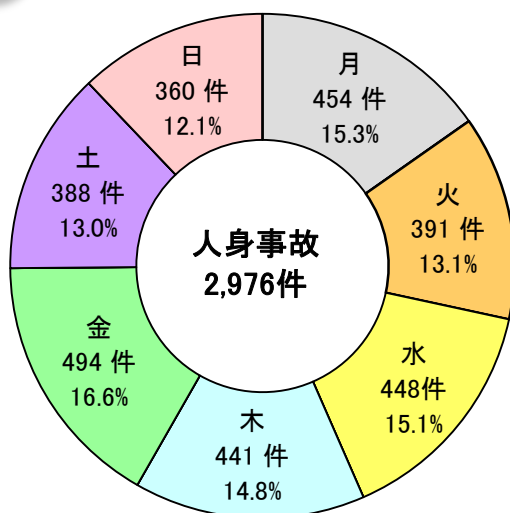


4 月別



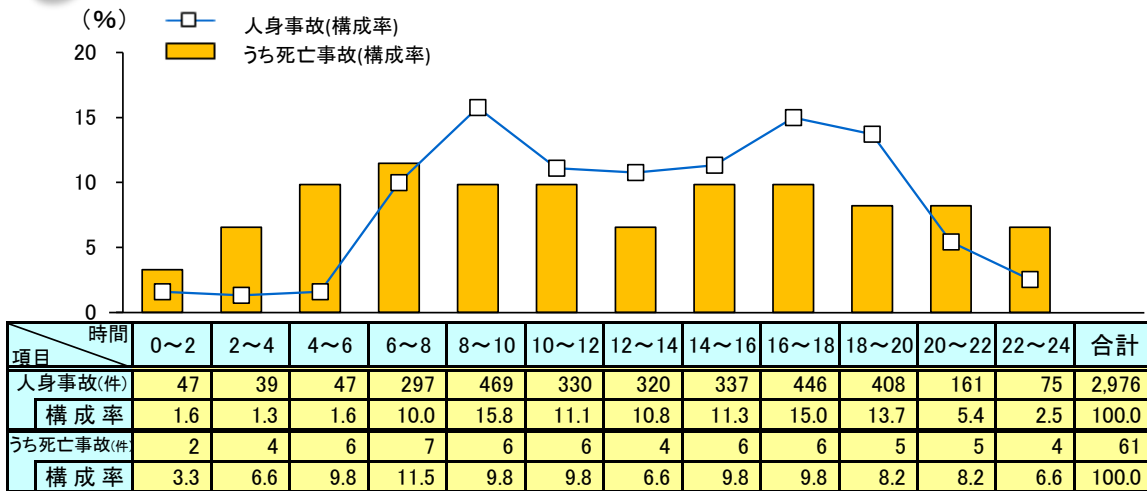
項目	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
人身事故(件)		255	237	249	230	274	219	248	270	218	247	286	243	2,976
構成率		8.6	8.0	8.4	7.7	9.2	7.4	8.3	9.1	7.3	8.3	9.6	8.2	100.0
うち死亡事故(件)		9	3	8	2	5	4	8	3	2	5	6	6	61
構成率		14.8	4.9	13.1	3.3	8.2	6.6	13.1	4.9	3.3	8.2	9.8	9.8	100.0

5 曜日別

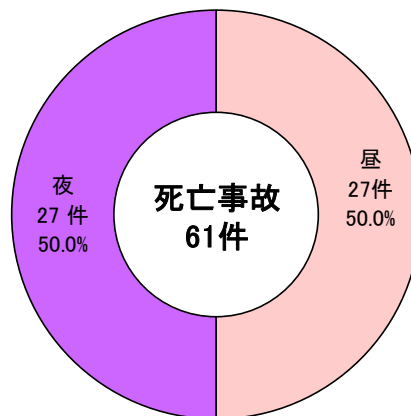
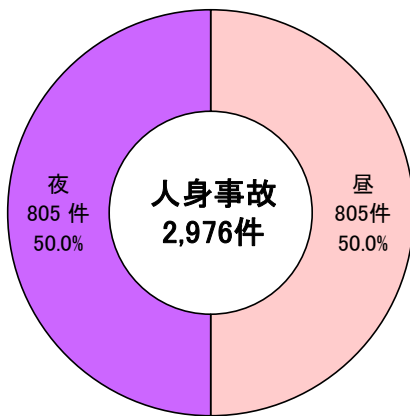


項目	曜日	月	火	水	木	金	土	日	合計
人身事故(件)		454	391	448	441	494	388	360	2,976
構成率		15.3	13.1	15.1	14.8	16.6	13.0	12.1	100.0
うち死亡事故(件)		9	8	8	7	9	9	11	61
構成率		14.8	13.1	13.1	11.5	14.8	14.8	18.0	100.0

6 時間別

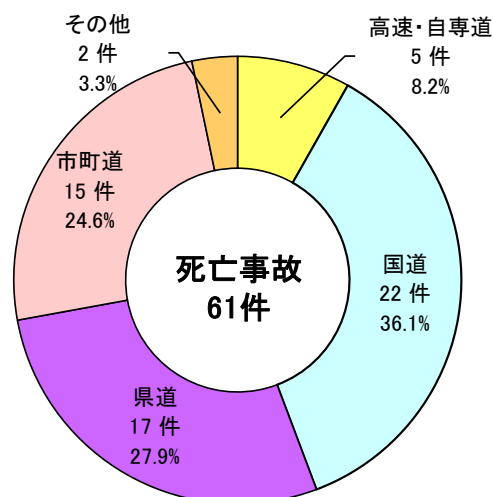
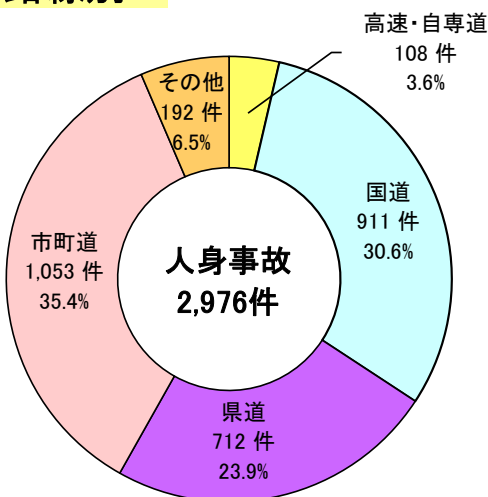


☆昼夜別



※昼は日の出から日没まで

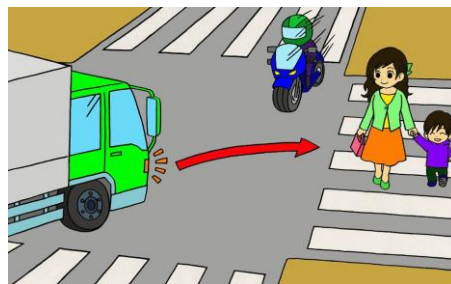
7 路線別



項目\路線	高速	自 専 道				国 道					県 道			市道	町道	その他	合計
		名阪国道	熊野尾鷲	東海環状	小計	1号	23号	42号	他	小計	主要	一般	小計				
人身事故(件)	84	22	2	0	24	132	379	62	338	911	393	319	712	996	57	192	2,976
構成率	2.8	0.7	0.1	0.0	0.8	4.4	12.7	2.1	11.4	30.6	13.2	10.7	23.9	33.5	1.9	6.5	100.0
うち死亡事故(件)	5	0	0	0	0	1	7	6	8	22	8	9	17	14	1	2	61
構成率	8.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.5	9.8	13.1	36.1	13.1	14.8	27.9	23.0	1.6	3.3	100.0

8 地形・道路形状・道路線形別

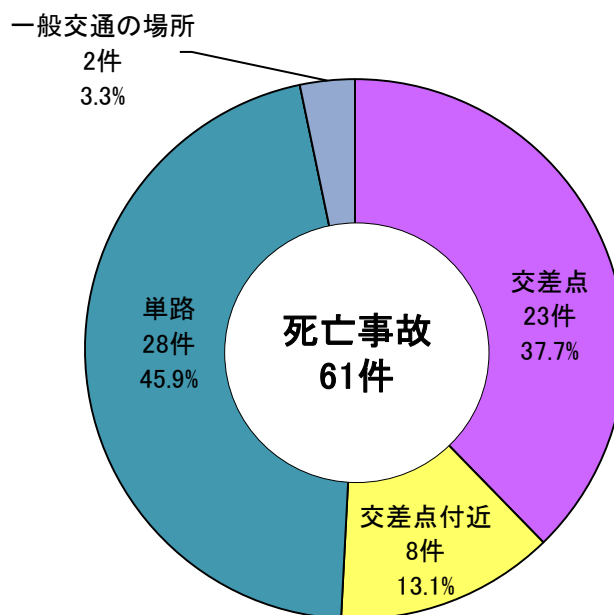
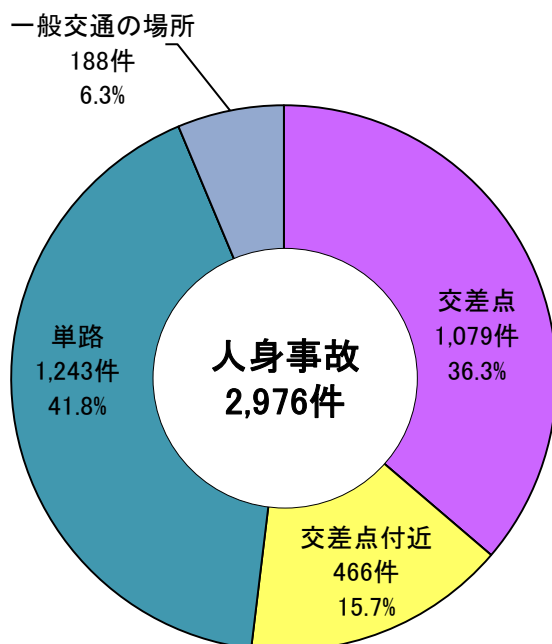
人身事故は市街地、死亡事故は非市街地で多く発生しています。人身事故の51.9%、死亡事故の50.8%は交差点や交差点付近で発生しています。



●交差点では、信号や一時停止規制を守り、左右の安全を確認しましょう。
特に、歩行者や自転車の横断に注意しましょう。



※市街地とは、建造物が連立し、又はこれらが混在しており、市街地的形態をなしている地域をいいます。



☆道路形状別

区 分	環状交差点	交差点	環状交差点 付 近	交差点付近	単路	踏切	一般交通の 場 所	合計
人身事故(件)	0	1,079	0	466	1,243	0	188	2,976
構 成 率	0.0	36.3	0.0	15.7	41.8	0.0	6.3	100.0
うち死亡事故(件)	0	23	0	8	28	0	2	61
構 成 率	0.0	37.7	0.0	13.1	45.9	0.0	3.3	100.0

☆道路線形別

区 分	カーブ・右	カーブ・左	直線	その他	合計
人身事故(件)	64	67	2,657	188	2,976
構 成 率	2.2	2.3	89.3	6.3	100.0
うち死亡事故(件)	2	5	52	2	61
構 成 率	3.3	8.2	85.2	3.3	100.0

9

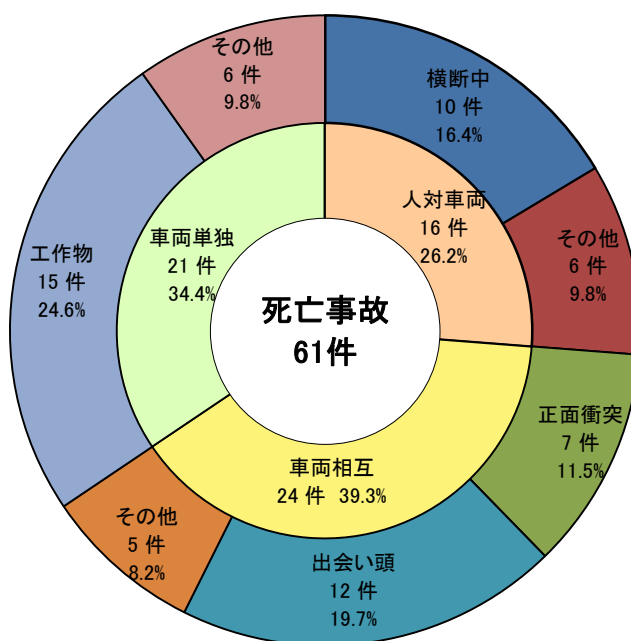
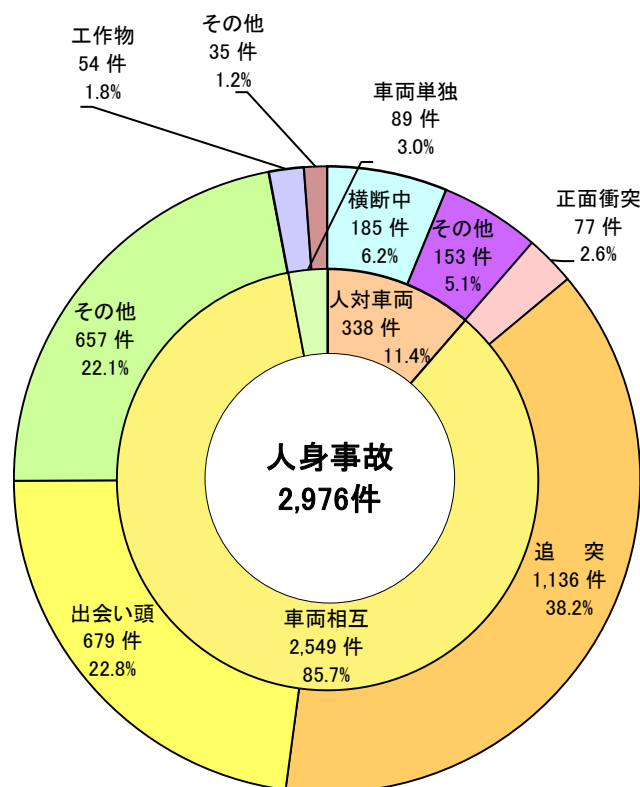
事故類型別

人身事故は、車両相互による追突事故が38.2%を占めています。

死亡事故は、人対車両の歩行者の横断中の事故が多いです。



●追突事故は、緊張感欠如がもたらす最たる事故です。緊張感を持って、前方をよく見て、安全な速度で運転しましょう。



区 分	人対車両					車両相互					車両単独				列 車	合 計
	対・背面通行	横断中		そ の 他	小 計	正 面 衝 突	追 突	出 会 い 頭	そ の 他	小 計	工 作 物	路 外 逸 脱	そ の 他	小 計		
		横断歩道	その他													
人身事故(件)	56	105	80	97	338	77	1,136	679	657	2,549	54	5	30	89	0	2,976
構成率	1.9	3.5	2.7	3.3	11.4	2.6	38.2	22.8	22.1	85.7	1.8	0.2	1.0	3.0	0.0	100.0
うち死亡事故(件)	5	2	8	1	16	7	0	12	5	24	15	3	3	21	0	61
構成率	8.2	3.3	13.1	1.6	26.2	11.5	0.0	19.7	8.2	39.3	24.6	4.9	4.9	34.4	0.0	100.0

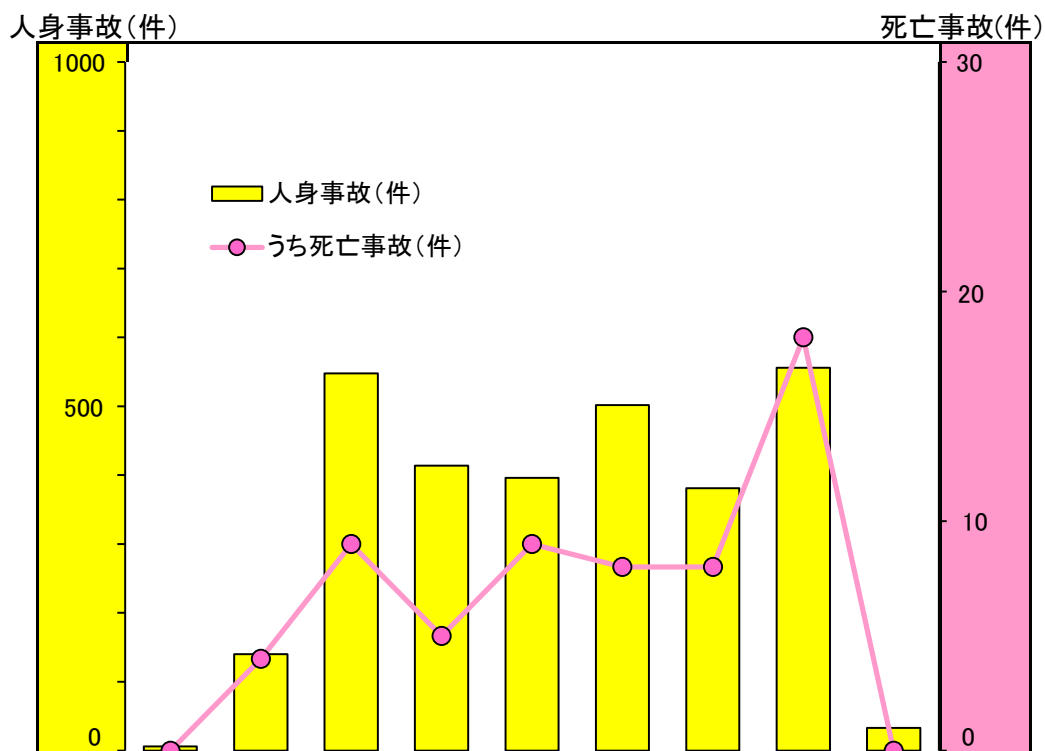
10

第1当事者の年齢層別

人身事故、死亡事故ともに70歳以上が最も多いです。

第1当事者が高齢者である死亡事故が、全死亡事故の36.1%を占めています。

- 道路を利用する全ての人が交通ルールを守り、お互いに注意して、交通事故を起こさないようにしましょう。



区 分	10歳未満	10歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上	不明	合計
人身事故(件)	6	140	548	414	396	502	381	556	33	2,976
構成率%	0.2	4.7	18.4	13.9	13.3	16.9	12.8	18.7	1.1	100.0
うち死亡事故(件)	0	4	9	5	9	8	8	18	0	61
構成率%	0.0	6.6	14.8	8.2	14.8	13.1	13.1	29.5	0.0	100.0

子 供 (中学生以下)	高 校 生	若 年 者 (16歳～24歳 高校生含む)	高 齢 者 (65歳以上)
26	433	742	742
0.9	14.5	24.9	24.9
1	10	22	22
1.6	16.4	36.1	36.1

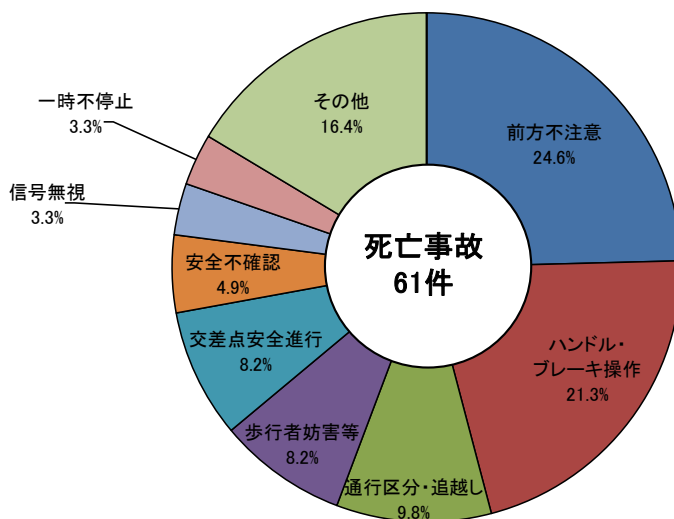
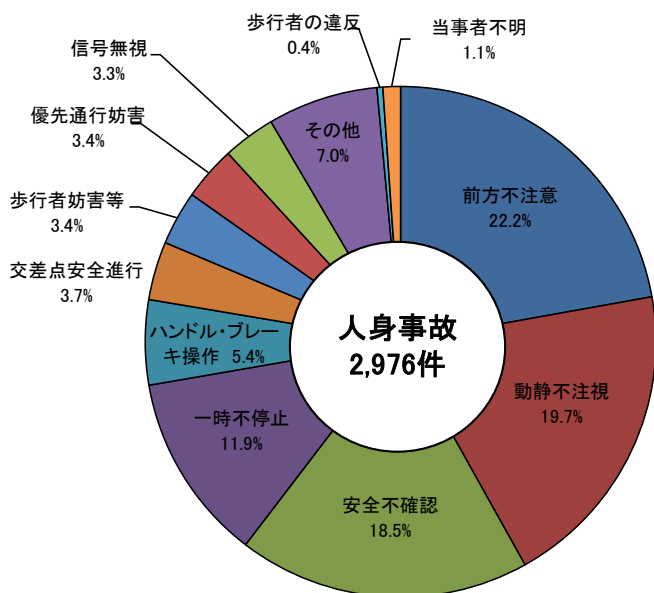
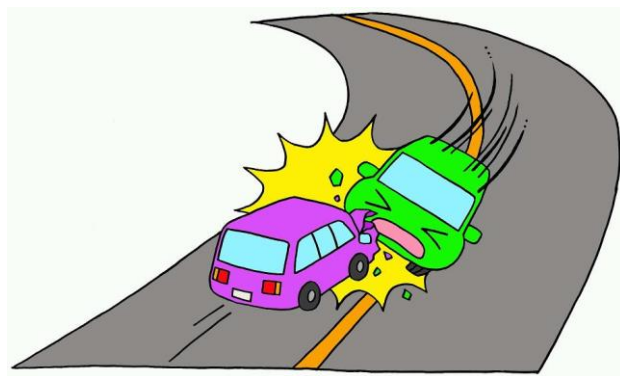
11

第1当事者の事故原因別

人身事故は、前方不注意、動静不注意、安全不確認による事故が全人身事故の60.4%を占めています。

死亡事故は、前方不注意、ハンドル・ブレーキ操作による事故が全死亡事故の45.9%を占めています。

- 運転中は、脇見や携帯電話等のながら運転をせず、運転に集中し、常に進路前方や周囲の状況を確認しましょう。
- 自転車や歩行者は、車の動きに注意し、無理な横断などは絶対にやめましょう。



区 分	車両等の違反																	歩 行 者 の 違 反	当 事 者 不 明	合 計	う ち 無 免 許		
	信 号 無 視	通 行 区 分 ・ 追 越 し	最 高 速 度	歩 行 者 妨 害 等	横 断 自 転 車 妨 害 等	一 時 不 停 止	酒 酔 い	右 ・ 左 折	優 先 通 行 妨 害 等	交 差 点 安 全 進 行	徐 行 場 所	安全運転義務					そ の 他					調 査 不 能	小 計
												ブ レ ー キ ・ ハ ン ド ル ・ 操 作	前 方 不 注 意	動 静 不 注 視	安 全 不 確 認	そ の 他							
人身事故(件)	99	26	1	102	21	354	0	24	102	110	24	160	660	587	550	75	28	9	2,932	11	33	2,976	33
構 成 率	3.3	0.9	0.0	3.4	0.7	11.9	0.0	0.8	3.4	3.7	0.8	5.4	22.2	19.7	18.5	2.5	0.9	0.3	98.5	0.4	1.1	100.0	1.2
うち死亡事故(件)	2	6	1	5	1	2	0	0	1	5	1	13	15	1	3	3	2	0	61	0	0	61	3
構 成 率	3.3	9.8	1.6	8.2	1.6	3.3	0.0	0.0	1.6	8.2	1.6	21.3	24.6	1.6	4.9	4.9	3.3	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	5.0

注 うち無免許とは、第1当事者が原付以上であった人身事故又は死亡事故のうち、当該第1当事者が無免許であった事故をいいます。

歩行者の違反…信号無視、飛び出し等

12

第1当事者の職業別

サービス業従事者（その他サービス業）が第1当事者となる事故が、人身事故の41.9%を占めています。

●家庭や職場などで交通ルールを守ることの大切さを話し合ひましょう。



1500	1000	500	人身事故 (件)	職業別	死亡事故 (件)	10	20	30
			24	子供	0			
			26	高校生	1			
			53	大学生	0			
			30	その他学生	1			
			149	職業運転者	4			
			81	公務員	0			
			21	農林業	1			
			3	漁業	0			
			3	鉱業	0			
			124	建設業	6			
			180	製造業	1			
			60	卸・小売業	3			
			25	金融保険業	0			
			5	不動産業	0			
			45	運送・郵便業	3			
			5	情報通信業	0			
			22	電気・ガス・熱・水道業	1			
			0	学術研究	0			
			39	宿泊・飲食業	1			
			39	生活関連サービス	2			
			25	教育・学習支援業	0			
			145	医療・福祉	2			
			13	複合サービス業	0			
			1,246	その他サービス業	21			
			6	分類不能の産業	0			
			97	主婦・主夫	1			
			469	無職	13			
			0	外国人	0			
			41	その他	0			
			2,976	合計	61			

区 分	子 供	高 校 生	大 学 生	そ の 他 学 生	職 業 運 転 者	公 務 員	農 林 業	漁 業	鉱 業	建 設 業	製 造 業	卸 ・ 小 売 業	金 融 保 険 業	不 動 産 業	運 送 ・ 郵 便 業
人身事故(件)	24	26	53	30	149	81	21	3	3	124	180	60	25	5	45
構成率	0.8	0.9	1.8	1.0	5.0	2.7	0.7	0.1	0.1	4.2	6.0	2.0	0.8	0.2	1.5
うち死亡事故(件)	0	1	0	1	4	0	1	0	0	6	1	3	0	0	3
構成率	0.0	1.6	0.0	1.6	6.6	0.0	1.6	0.0	0.0	9.8	1.6	4.9	0.0	0.0	4.9

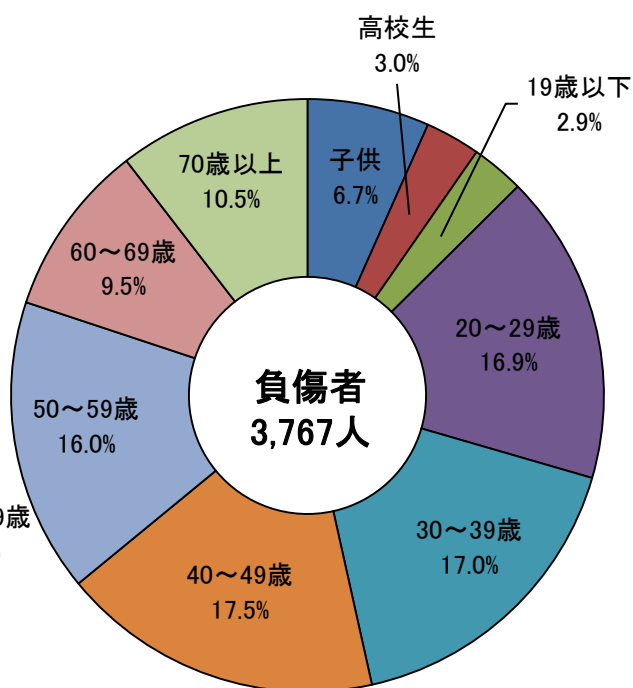
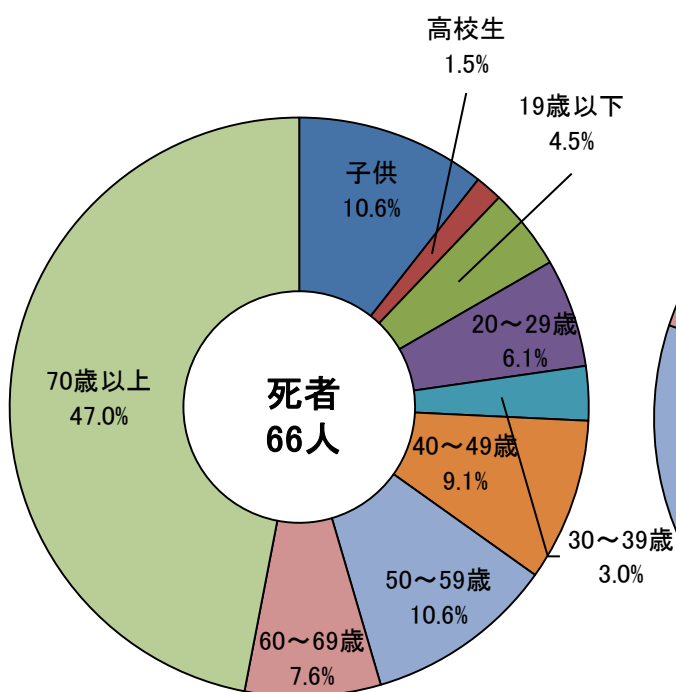
区 分	情 報 通 信 業	水 道 ・ 電 気 ・ ガ ス ・ 熱 ・ 冷 凍 機 械 業	学 術 研 究	宿 泊 ・ 飲 食 業	サ ー ビ ス ・ 生 活 関 連 業	支 教 育 ・ 学 習 支 援 業	医 療 ・ 福 祉	複 合 サ ー ビ ス 業	そ の 他 サ ー ビ ス 業	分 類 不 能 の 産 業	主 婦 ・ 主 夫	無 職	外 国 人	そ の 他	合 計
人身事故(件)	5	22	0	39	39	25	145	13	1,246	6	97	469	0	41	2,976
構成率	0.2	0.7	0.0	1.3	1.3	0.8	4.9	0.4	41.9	0.2	3.3	15.8	0.0	1.4	100.0
うち死亡事故(件)	0	1	0	1	2	0	2	0	21	0	1	13	0	0	61
構成率	0.0	1.6	0.0	1.6	3.3	0.0	3.3	0.0	34.4	0.0	1.6	21.3	0.0	0.0	100.0

13 死傷者の年齢層別

65歳以上の高齢者の死者が、全死者の50.0%を占めています。



- 車を運転するときは、速度を控えめにして慎重な運転をしましょう。
- 思いやりの気持ちを持って、ゆとりのある運転に努めましょう。



区 分	子 供	高 校 生	19 歳 以 下	20 ～ 29 歳	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計
死 者 数	7	1	3	4	2	6	7	5	31	66
構 成 率	10.6	1.5	4.5	6.1	3.0	9.1	10.6	7.6	47.0	100.0
負 傷 者 数	251	113	109	638	641	661	604	356	394	3,767
構 成 率	6.7	3.0	2.9	16.9	17.0	17.5	16.0	9.5	10.5	100.0

若 年 者 (16歳～24歳)	高 齢 者 (65歳以上)
7	33
10.6	50.0
493	527
13.1	14.0

※子供は、中学生以下をいい、年齢区分は、子供と高校生を除いた人数をいいます。

14

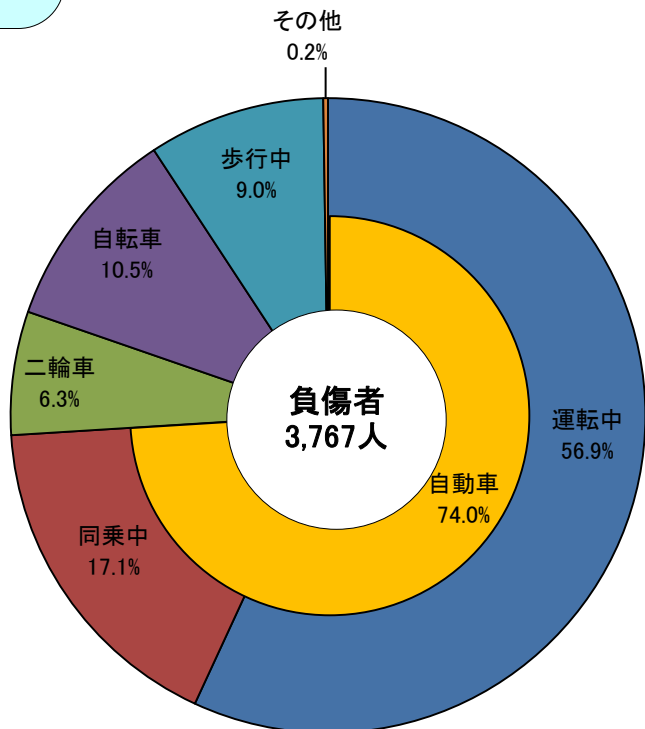
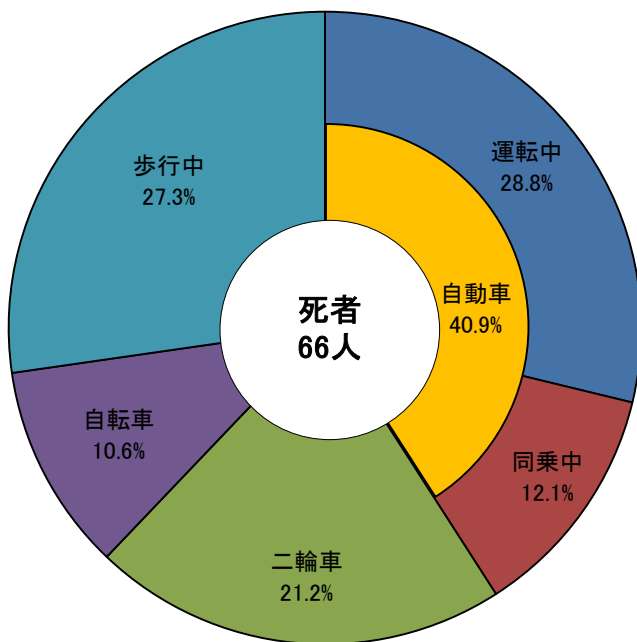
死傷者の状態別

負傷者は、自動車乗車中が74.0%と最も多くなっています。

死者は、自転車乗用中、歩行中が全死者の37.9%を占めています。



- 道路を横断するときは、止まって左右の安全を確認してから横断しましょう。
- 近くに横断歩道があるときは、横断歩道を渡りましょう。



区 分	運 転 中				同 乗 中				歩 行 中	そ の 他	合 計
	自 動 車	二 輪 車	自 転 車	小 計	自 動 車	二 輪 車	自 転 車	小 計			
死 者 数	19	14	7	40	8	0	0	8	18	0	66
構 成 率	28.8	21.2	10.6	60.6	12.1	0.0	0.0	12.1	27.3	0.0	100.0
負 傷 者 数	2,143	234	394	2,771	645	3	0	648	339	9	3,767
構 成 率	56.9	6.2	10.5	73.6	17.1	0.1	0.0	17.2	9.0	0.2	100.0

15

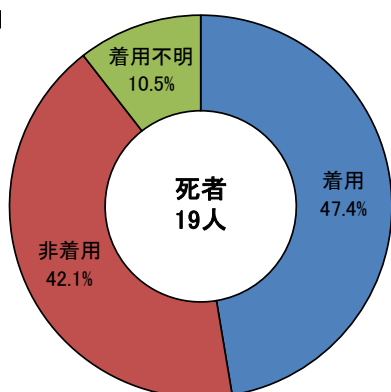
シートベルトの着用状況

自動車運転中死者の着用率は44.4%（運転中47.4%、同乗中37.5%）であり、負傷者の着用率、96.9%（運転中98.7%、同乗中90.9%）と比べ低くなっています。

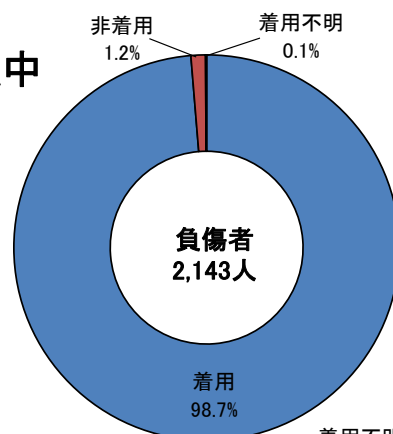


- シートベルト非着用死者9人中7人（77.8%）が、シートベルトを着用していれば助かったと推定されます。
- 後部座席を含め、自動車に乗車するときは全ての座席でシートベルトを確実に着用しましょう。

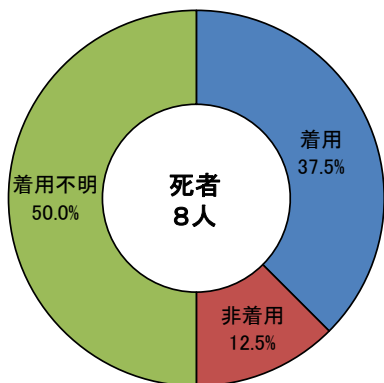
運転中



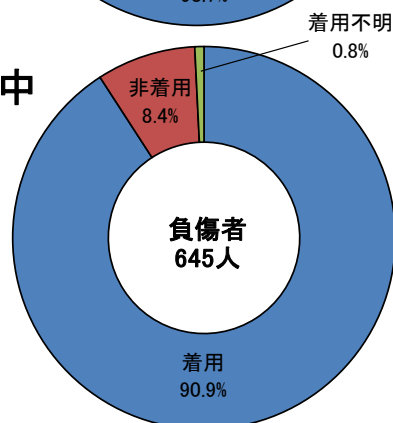
運転中



同乗中



同乗中



区 分		自 動 車														特殊車		合 計		
		大型車		中型車		準中型		普通車		軽自動車		ミニカー		小計						
		運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	計
死者数	着 用	0	0	0	0	0	0	3	0	6	3	0	0	9	3	0	0	9	3	12
	着用率%	-	-	0.0	-	-	-	50.0	0.0	50.0	100.0	-	-	47.4	37.5	-	-	47.4	37.5	44.4
	非 着 用	0	0	1	0	0	0	2	1	5	0	0	0	8	1	0	0	8	1	9
	着用不明	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0	0	0	2	4	0	0	2	4	6
	計	0	0	1	0	0	0	6	5	12	3	0	0	19	8	0	0	19	8	27
負傷者数	着 用	34	17	14	2	35	13	1,110	369	922	185	0	0	2,115	586	0	0	2,115	586	2,701
	着用率%	100.0	94.4	93.3	40.0	94.6	92.9	98.8	90.9	98.8	91.6	-	-	98.7	90.9	0.0	-	98.7	90.9	96.9
	非 着 用	0	1	1	3	2	1	12	34	10	15	0	0	25	54	1	0	26	54	80
	着用不明	0	0	0	0	0	0	1	3	1	2	0	0	2	5	0	0	2	5	7
	計	34	18	15	5	37	14	1,123	406	933	202	0	0	2,142	645	1	0	2,143	645	2,788

16

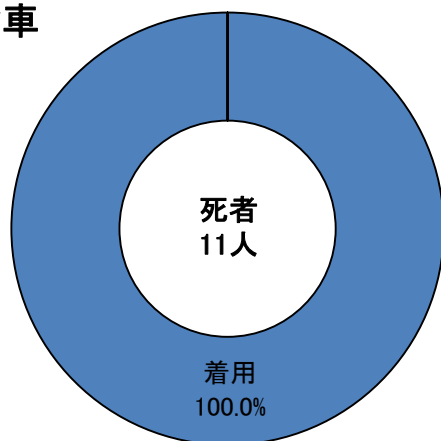
ヘルメットの着用状況(自動二輪車・原付自転車)

死傷者の2.0%がヘルメットを着用していません。

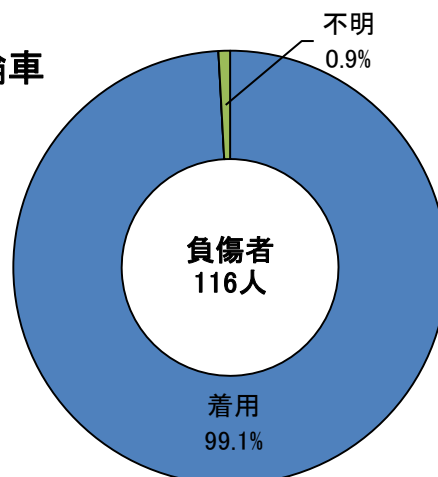
●ヘルメットは、あなたの命を守ります。
正しく着用しましょう。



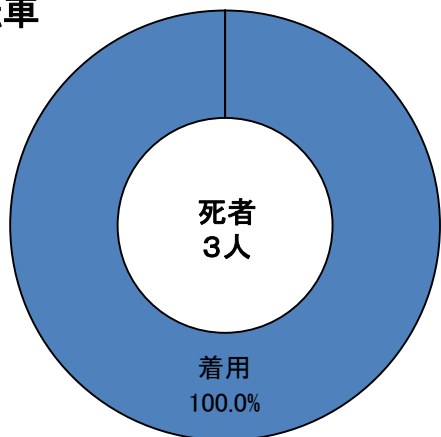
自動二輪車



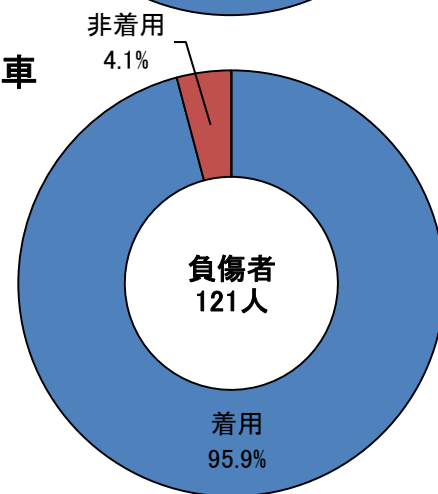
自動二輪車



原付自転車
(50cc)



原付自転車
(50cc)



区 分		自 動 二 輪												原付自転車		合 計		
		小型二輪						軽二輪		原付二種		小 計						
		751cc以上		401～750cc		251～400cc		126～250cc		51～125cc								
		運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	運転	同乗	計
死 者 数	着 用	3	0	0	0	1	0	6	0	1	0	11	0	3	0	14	0	14
	着用率%	100.0	-	-	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	100.0
	非 着 用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	着用不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	0	0	0	1	0	6	0	1	0	11	0	3	0	14	0	14
負 傷 者 数	着 用	18	0	5	0	20	0	33	1	37	1	113	2	116	0	229	2	231
	着用率%	100.0	-	100.0	-	95.2	-	100.0	100.0	100.0	100.0	99.1	100.0	96.7	0.0	97.9	66.7	97.5
	非 着 用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	4	1	5
	着用不明	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
	計	18	0	5	0	21	0	33	1	37	1	114	2	120	1	234	3	237

第 4 各種の交通事故

1 子供の交通事故

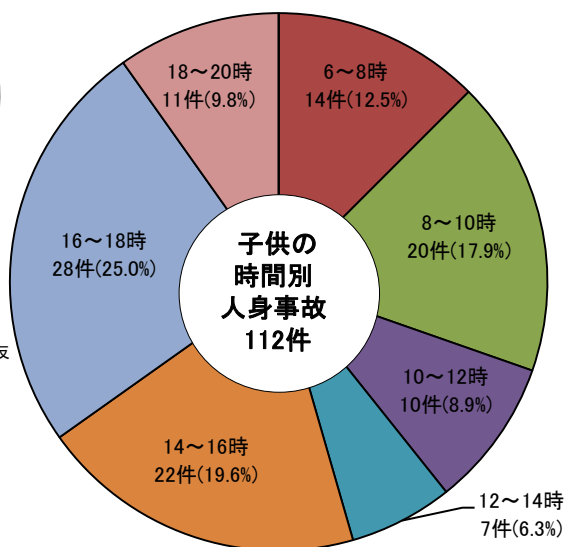
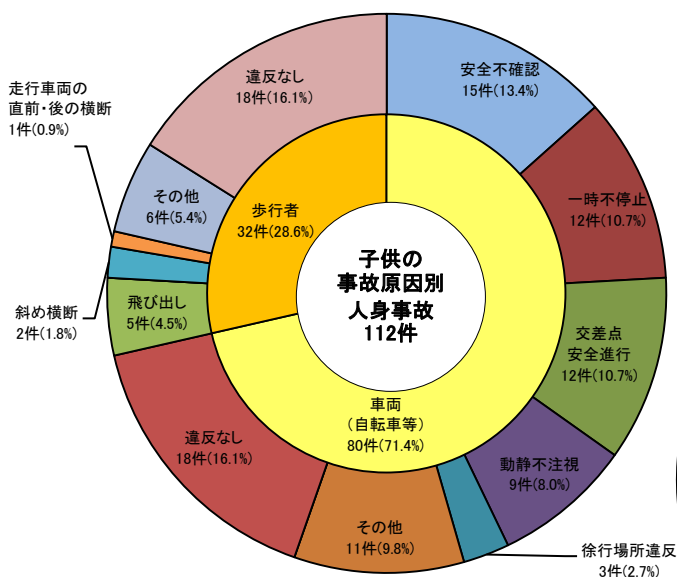
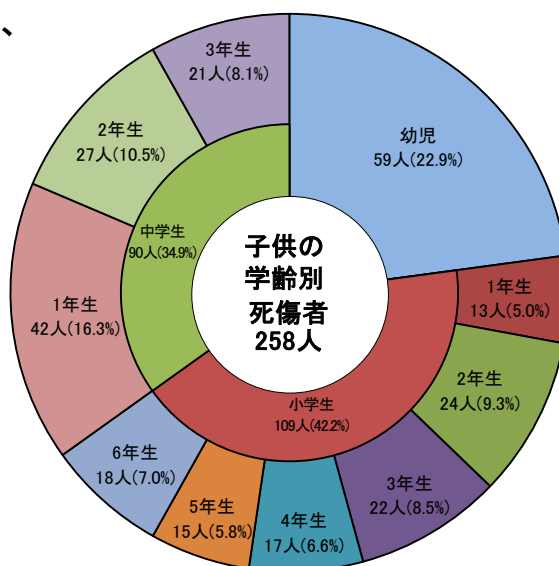
(幼児、小・中学生が関与した事故)



小学生の死傷者が子供の死傷者の42.2%を占めています。

事故原因別では、自転車は安全不確認、歩行者は飛び出しが多いです。

- 道路を横断するときは、止まって左右の安全を確認してから横断しましょう。
- 大人が手本となって交通ルールを教えましょう。



※子供同士の事故はなし。
 ※死者は7人
 ※車両は原付1件を含む。

●子供の交通事故発生状況

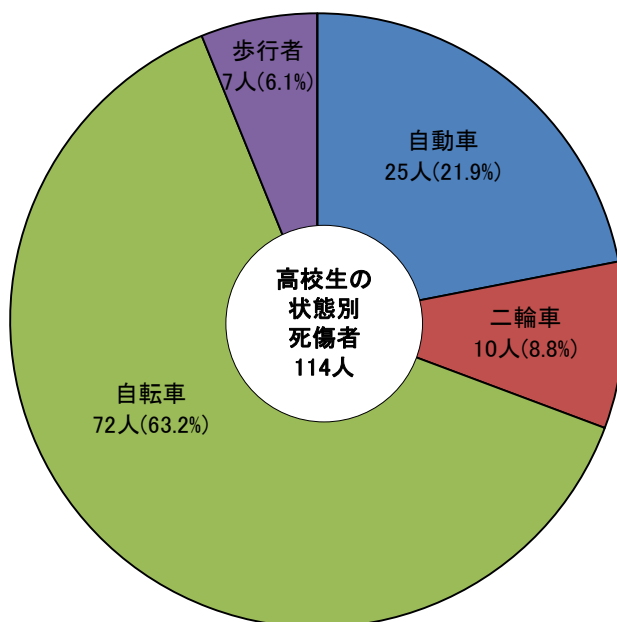
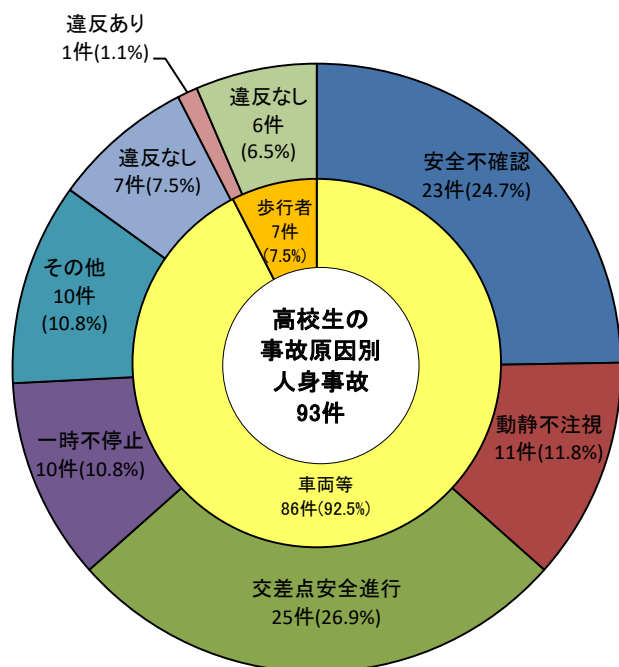
区 分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	273	215	181	177	128	103	76	80	88	112
死 者 数	3	1	2	2	0	1	0	0	1	7
負傷者数	661	599	588	459	340	258	190	180	202	251
死 傷 者 率	6.1	6.2	7.1	6.4	5.5	5.4	5.0	5.3	5.5	6.7

2 高校生の交通事故

自転車乗用中の死傷者が、63.2%を占めています。

車両等の事故原因別では、安全不確認と動静不注視が36.6%を占めています。

●自転車に乗るときは、交通ルールを守り、交通安全を徹底しましょう。



※死者の内訳は、二輪車乗用中1人

※高校生同士の事故1件を重複計上

※車両等のうち原付以上による事故は12件、自転車による事故は74件

●高校生の交通事故発生状況

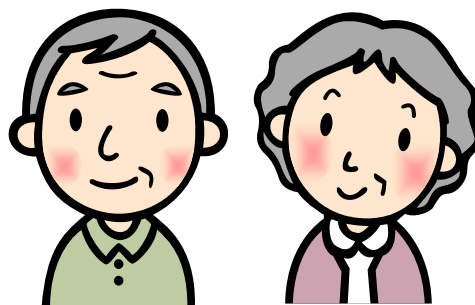
区分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	211	168	141	144	133	86	88	66	87	92
死者数	1	0	0	1	2	1	1	1	0	1
負傷者数	270	227	210	173	169	118	99	76	117	113
死傷者率	2.5	2.4	2.5	2.4	2.7	2.5	2.6	2.3	3.2	3.0

3 高齢者の交通事故

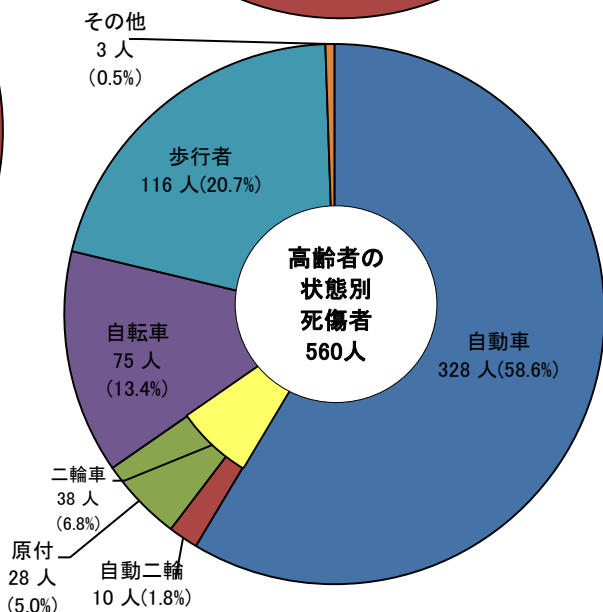
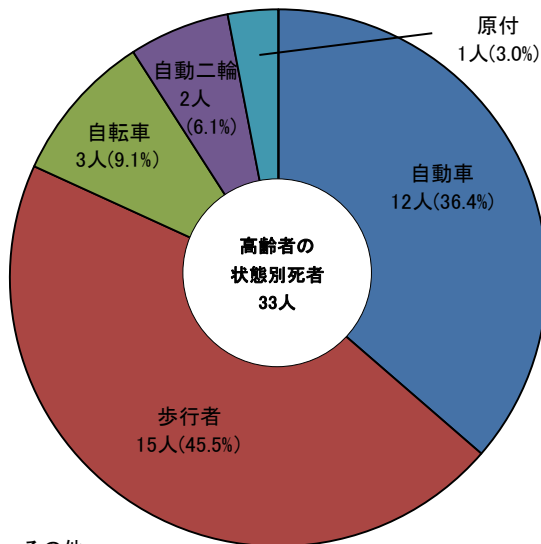
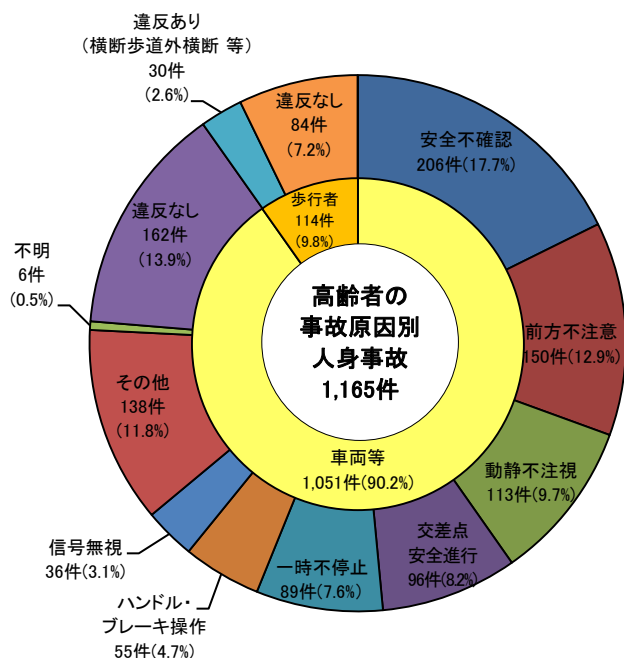
(年齢65歳以上の人が関与した事故)

(1) 全体

状態別死者では、歩行者・自転車乗用中が54.6%を占めています。



- 加齢に伴い、
 - ・視力の低下
 - ・視野の狭まり
 - ・聴力の低下
 など、身体の変化があることを理解しましょう。



※高齢者同士の事故140件を重複計上

※車両等のうち原付以上による事故は976件、自転車による事故は75件です

●高齢者の交通事故発生状況

区 分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	2,330	2,151	1,843	1,638	1,509	1,204	987	883	960	1,025
死者数	57	52	52	37	57	42	39	40	41	33
負傷者数	1,647	1,448	1,224	999	959	755	574	491	532	527
死傷者率	15.7	15.6	15.5	14.4	16.3	16.7	16.1	15.6	15.5	14.6

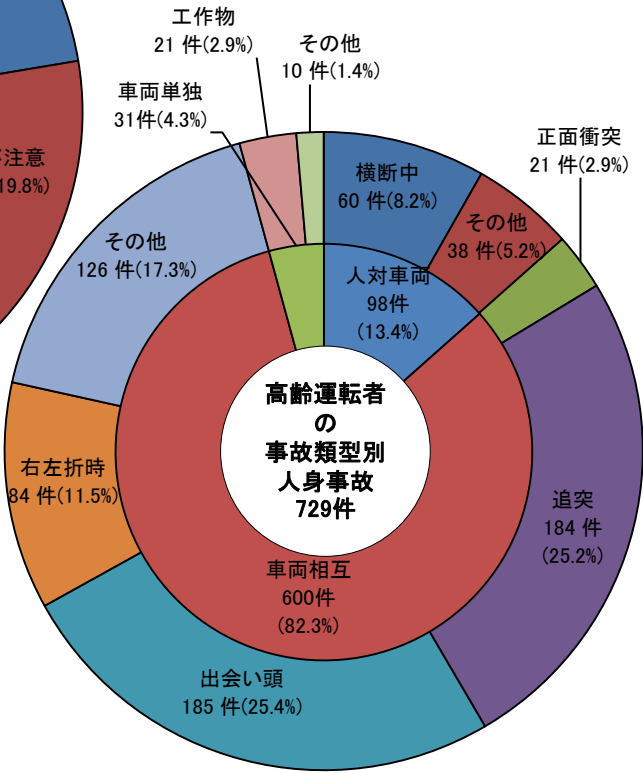
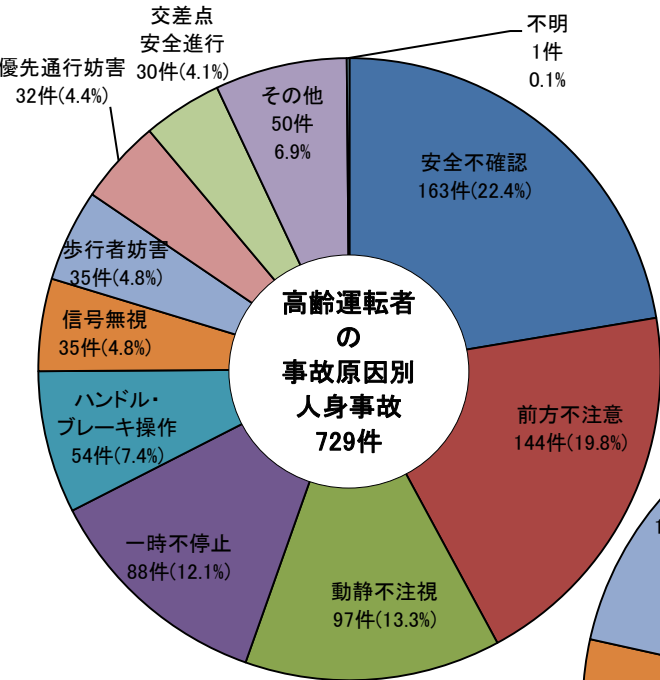
(2)高齢運転者

(年齢65歳以上で原付以上の運転者が第1当事者になった事故)

事故原因別では、安全不確認、前方不注意、
動静不注視で全体の55.4%を占めています。

事故類型別では、追突と出会い頭で50.6%
を占めています。

- 運転中は、常に周囲の状況に注意を払い、安全運転を心掛けましょう。
 - 高齢運転者標識を付けた自動車への幅寄せや割り込みはやめましょう。



●高齢運転者の交通事故発生状況

区 分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	1,416	1,331	1,136	1,041	968	783	663	581	644	729
構成率	18.3	19.4	19.8	20.1	21.5	22.5	23.5	22.4	23.2	25.6
うち死亡事故(件)	20	28	24	10	22	28	20	19	23	21
構成率	22.5	37.8	27.9	14.1	29.7	43.1	29.9	37.3	44.2	35.0

※構成率は、原付以上の運転者が第1当事者になった事故に占める高齢運転者による事故の割合

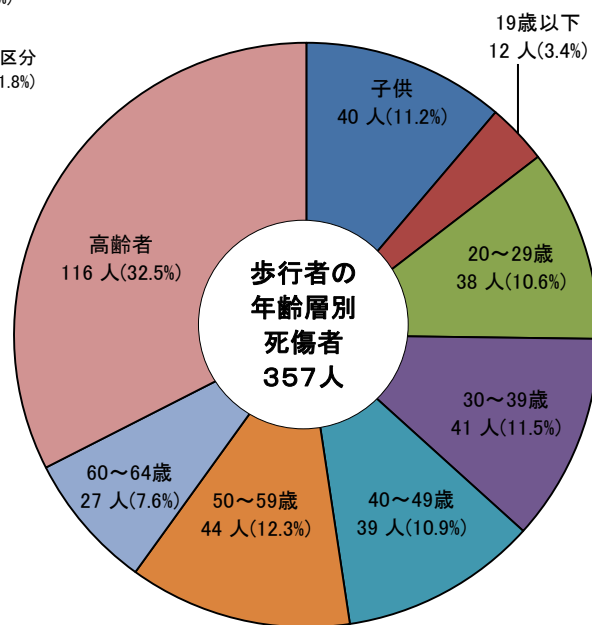
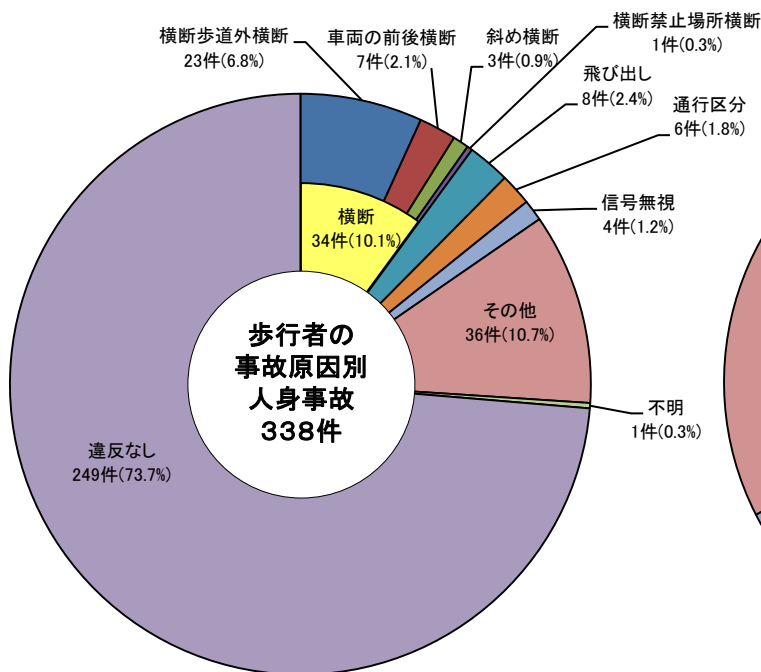
4

歩行者の交通事故

歩行者の26.0%に何らかの違反があり、そのうち、横断に関する違反が最も多くなっています。

年齢層別では、高齢者の死傷者が32.5%を占めています。

- 道路を横断するときは、横断歩道を利用しましょう。
- 車のかげからの飛び出しは、危険ですから絶対にやめましょう。
- 夕暮れ時や夜間に外出するときは、明るい服装で反射材用品等を身に着けましょう。



※死者18人の内訳は、40～49歳1人、50～59歳1人、60～64歳1人、高齢者15人です。

●歩行者の交通事故発生状況

区 分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	592	552	479	486	398	331	331	301	266	338
死者数	36	28	37	26	25	24	26	21	21	18
負傷者数	578	549	467	490	382	329	320	288	255	339
死傷者率	5.7	6.0	6.1	7.2	6.5	7.4	9.1	9.1	7.5	9.3

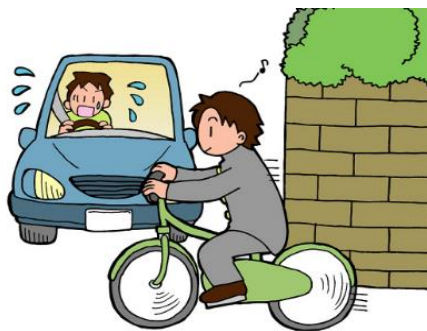
5

自転車の交通事故

(1)全体

事故原因別では、安全不確認、交差点安全進行で全体の45.6%を占めています。

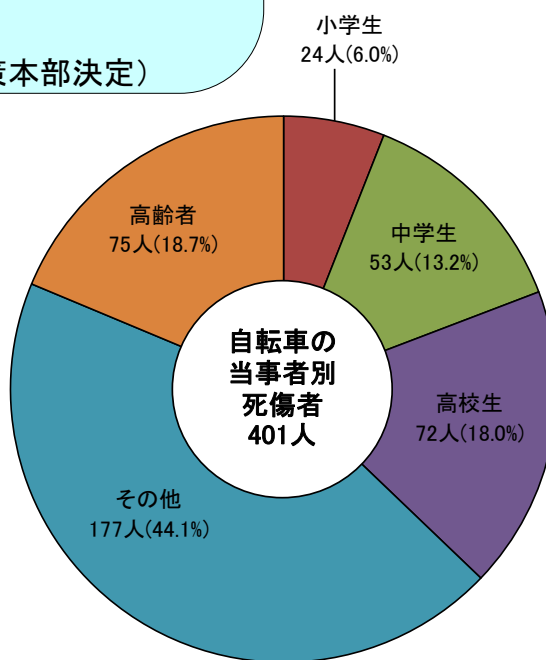
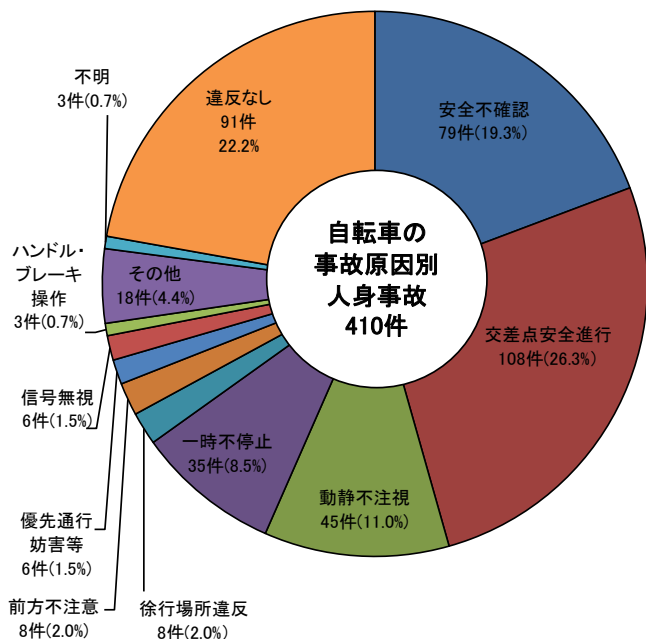
年齢層別では、高校生以下の死傷者が37.2%を占めています。



自転車安全利用五則

- 1 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- 2 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 夜間はライトを点灯
- 4 飲酒運転は禁止
- 5 ヘルメットを着用

(令和4年11月1日交通対策本部決定)



※自転車同士の事故6件を重複計上

※ 死者7人の内訳は、小学生1人、中学生1人、高齢者3人、その他2人です。

●自転車の交通事故発生状況

区分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	954	750	633	635	531	426	372	339	395	404
死者数	18	12	12	15	14	6	9	10	8	7
負傷者数	939	737	621	613	511	424	355	328	391	394
死傷者率	8.8	7.8	7.7	8.7	8.4	9.0	9.6	9.9	10.8	10.5

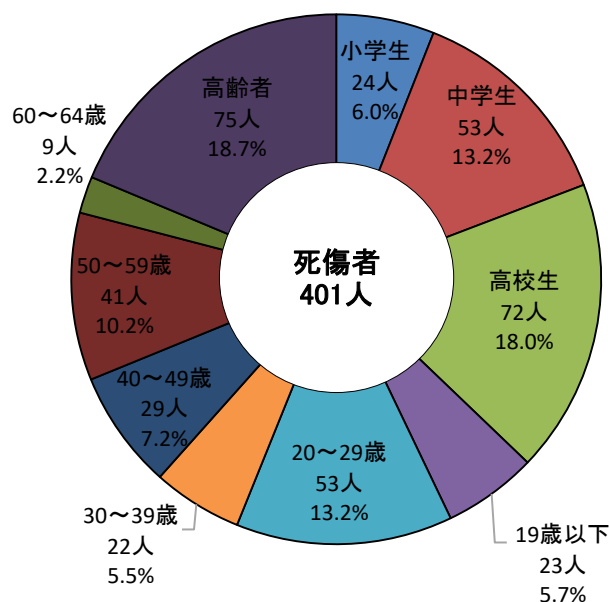
(2)年齢別のヘルメット着用状況(自転車)

自転車乗用中死傷者のヘルメットの着用率は24.4%でした。

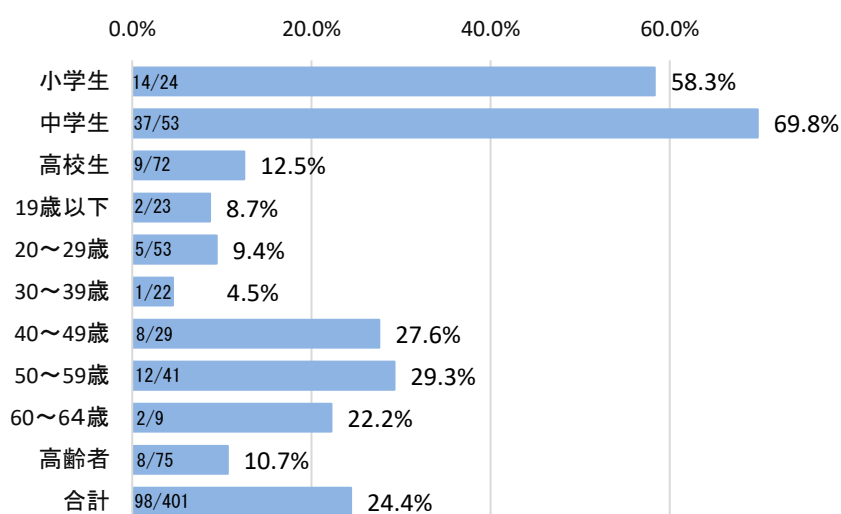
●ヘルメットは、あなたの命を守ります。
正しく着用しましょう。



年齢別死傷者



年齢別ヘルメット着用率



※ グラフ内の数字は、ヘルメット着用者／自転車乗用中死傷者

※ 幼児の自転車乗用中死傷者はなし。

区分		幼児	小学生	中学生	高校生	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	合計
死者数	着用	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
	着用率%	-	0.0	100.0	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	0.0	42.9
	非着用	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4
	着用不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	3	7
負傷者数	着用	0	14	36	9	1	5	1	7	12	2	3	1	4	95
	着用率%	-	60.9	69.2	12.5	4.5	9.4	4.5	25.0	29.3	22.2	30.0	6.3	8.7	24.1
	非着用	0	9	16	63	21	47	21	21	29	6	7	14	42	296
	着用不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	3
	計	0	23	52	72	22	53	22	28	41	9	10	16	46	394

※子供は、中学生以下をいい、高齢者は、65歳以上をいう。

子供	高齢者 (65歳以上)	高齢者 (70歳以上)
1	0	0
50.0	0.0	0.0
1	3	3
0	0	0
2	3	3
50	8	5
66.7	11.1	8.1
25	63	56
0	1	1
75	72	62

6

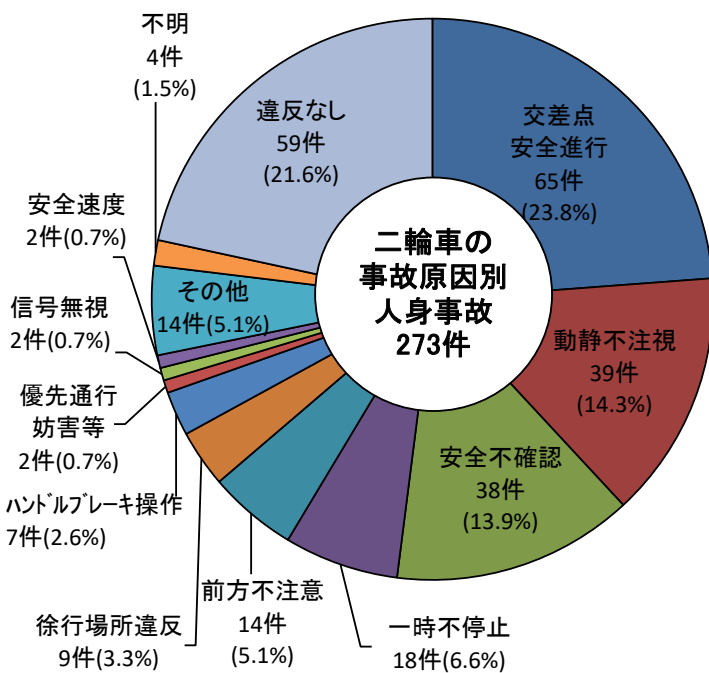
二輪車の交通事故

事故原因別では、交差点安全進行と動静不注視で全体の38.1%を占めています。

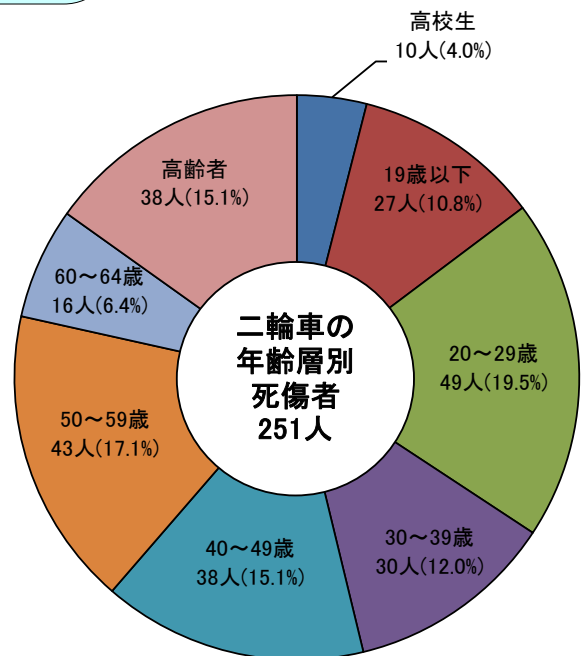
年齢層別では、20～29歳の死傷者が、19.5%を占めています。



- 交差点を進行するときは、必ず安全を確認しましょう。
- 二輪車を運転するときは、正しい乗車姿勢を保ち、ヘルメットを正しく着用するとともに、プロテクターを着用しましょう。



※ 二輪車同士の事故3件を重複計上
※ 無免許は6件



※ 死者14人の内訳は、高校生1人、19歳以下1人、20～29歳3人、40～49歳1人、50～59歳3人、60～64歳2人、65歳以上3人です。

●二輪車の交通事故発生状況

区分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	829	687	629	477	446	328	307	271	271	270
死者数	20	15	17	10	13	16	15	9	6	14
負傷者数	777	655	594	449	409	287	286	259	253	237
死傷者率	7.4	7.0	7.4	6.4	6.8	6.4	7.9	7.9	7.0	6.5

7

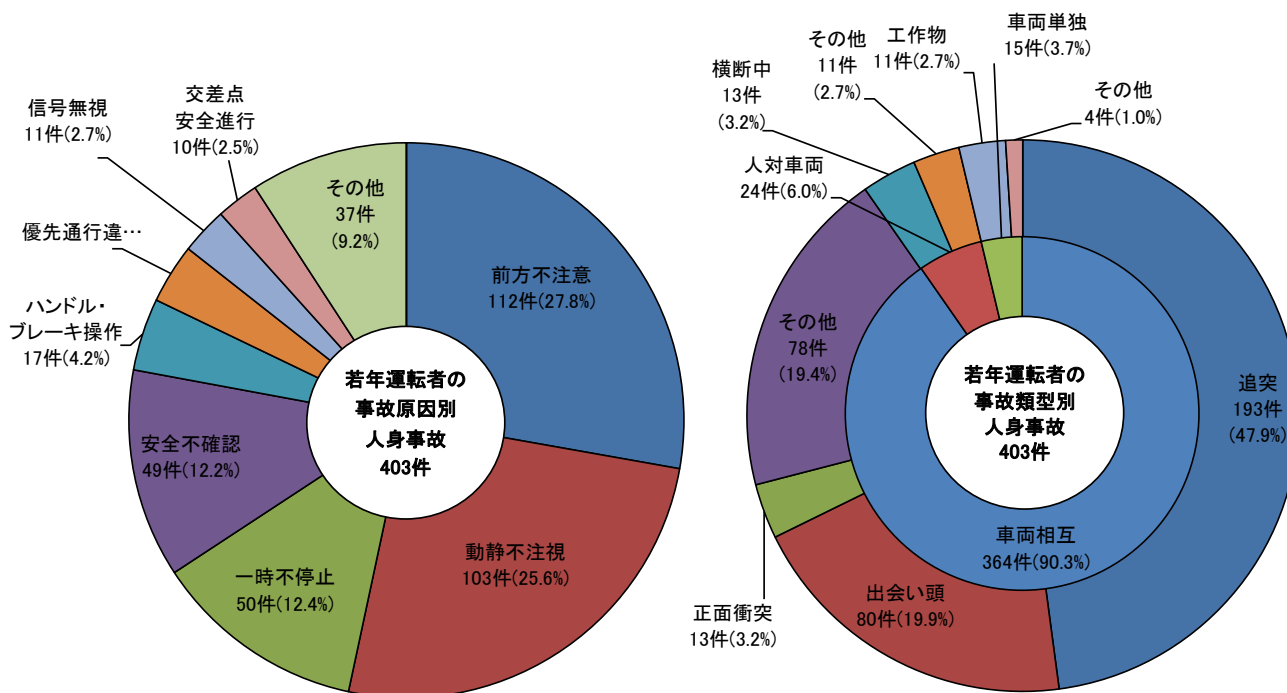
若年運転者の交通事故

(年齢16～24歳の原付以上の運転者が第1当事者となった事故)

人身事故の事故原因別では、前方不注意、動静不注意、安全不確認で全体の65.6%を占め、事故類型別では追突が47.9%を占めています。



- 速度が速いほど、停止距離が長く、衝突時の衝撃が大きくなります。安全な速度で運転しましょう。
- 交通ルールを遵守して、常に周囲の状況に注意を払いましょう。



●若年運転者の交通事故発生状況

区分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	1,294	1,155	977	850	741	567	454	374	431	403
構成率	16.7	16.9	17.0	16.4	16.5	16.3	16.1	14.4	15.5	14.2
うち死亡事故(件)	11	6	9	9	11	1	11	5	6	10
構成率	12.4	8.1	10.5	12.7	14.9	1.5	16.4	9.8	11.5	16.7

※構成率は、原付以上の運転者が第1当事者になった事故に占める若年運転者による事故の割合です。

8

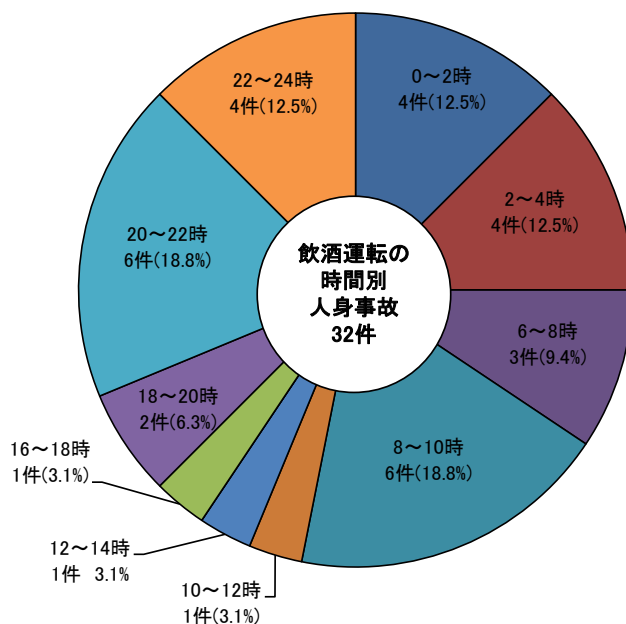
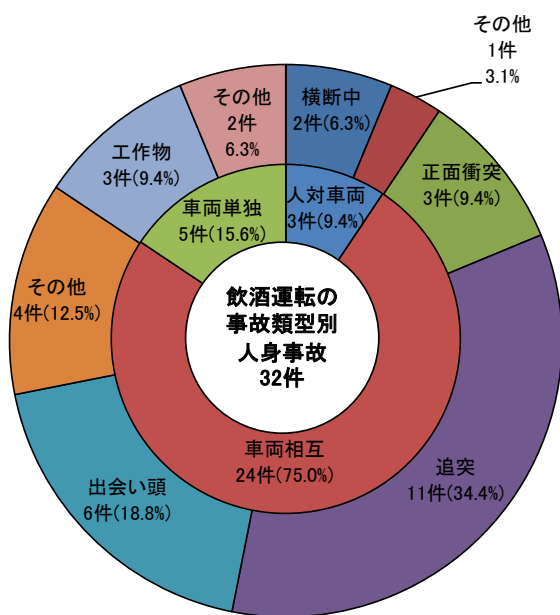
飲酒運転の交通事故

(原付以上の運転者が、飲酒運転をして第1当事者となった事故)

飲酒運転の人身事故は、事故類型別では追突が34.4%を占めており、時間別では8時～10時、20時～22時の発生がそれぞれ18.8%と多くなっています。



- アルコールの影響で適切な判断や運転操作ができず、事故を引き起こす危険性が高くなります。
- 一人一人が、飲酒運転は絶対に「しない」「させない」「許さない」ことを徹底し、飲酒運転を根絶しましょう。



※死亡事故は、車両相互1件、車両単独3件で、0～2時、2～4時、8～10時、12時～14時にそれぞれ1件発生しています

区分	26年	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
人身事故(件)	55	44	36	34	42	36	37	28	42	32
構成率	0.7	0.6	0.6	0.7	0.9	1.0	1.3	1.1	1.5	1.1
うち死亡事故(件)	9	1	1	5	3	2	5	1	4	4
構成率	10.1	1.4	1.2	7.0	4.1	3.1	7.5	2.0	7.7	6.7

※構成率は、原付以上の運転者が第1当事者になった事故に占める飲酒運転者による事故の割合です。